市民病院 ハナちゃん通信

問合せ
市民病院管理課
☎(48)5050

Q&A 緩和ケア認定看護師が答えます

緩和ケアとは「がんなどの病気を持って生活する、患者さんやその家族１人ひとりの、身体や心のつらさを和らげ、より豊かな人生を送ることができるように支えていくケア」と言われています。

今回は、患者さんや家族からよく相談されることをＱ＆Ａでご紹介します。

Q緩和ケアはいつごろから受けるものですか。

A「緩和ケア」はがんと分かった早期から、がんに対する治療と並行して行われることが「その人らしく生活するうえで大切」と言われています。早期から緩和ケアも同時に受けることをお勧めします。

Q先生に聞きたいことを上手に聞くにはどうしたら良いでしょうか。

A診察の場では、病気や治療など普段聞き慣れていない話も多く、緊張する人も多いと思います。

・病気や治療の話を聞くときには、家族も一緒に聞く。
・前もって聞きたいことをメモに書いておく。
・難しい書類などは、家族にも一緒に読んでもらう。

安心してお話を聞いていただくために、このような方法も勧められています。

「がんと言われてから気持ちの整理を一緒にしてほしい」など面談を希望する人は、緩和ケア相談看護外来をご利用ください。

碧南の歴史へのいざない

問合せ
文化財課内市史資料
調査室　☎(41)4566

No. 48　大浜藩が生まれてまもなく250年（2）

三河大浜藩の殿さまとなる水野忠友が幕府役人として異例の出世をするきっかけは、８歳のときにありました。10代将軍となる家治（幼名竹千代３歳）の小姓選抜です。『沼津略記』という文書には忠友が「御吟味」の対象となる「１万石以下３千石以上の徳川家同族であり、８歳から10歳まで」という条件を満たし、小姓に合格したことが記されています。

1739年３月23日、忠友は父に連れられて江戸城西の丸へ登城し、初めて竹千代に御目見えをしています。

△『沼津略記』を収めている沼津市史

江戸城西の丸は、次に将軍となる「お世継ぎ」が生活するところでした。また、西の丸は将来「お世継ぎ」の身近で奉公し、幕府政治を担う若者が生活するところでもありました。

８歳の忠友が仕えたとき、西の丸小姓組で頭角を現していたのは、20歳になる田沼意次でした。意次の父は紀州藩出身で、８代将軍吉宗は、身近に紀州藩出身者を配置したいと考えていました。意次はその縁で子どものとき、吉宗の長男家重の小姓に抜てきされ、家重が９代将軍につくと、田沼意次は家重とともに江戸城本丸へ移り将軍の側近として活躍をはじめました。

このころになると、幕府や藩の財政を支えてきた、百姓から年貢米を取り立てるだけの方法には矛盾が現れてきていました。幕府内ではさらに百姓への年貢米を増やし財政を立て直そうとする勢力と、年貢米の限界を見て商・工業者への課税で活路を見出そうとする勢力との路線対立が表面化していました。